

東大の山室教授 管理対策を紹介

浜松市の佐鳴湖の水質浄化に向け、水のろ過能力を持つヤマトシジミの繁殖に取り組む市民グループ「佐鳴湖シジミプロジェクト協議会」などは17日、佐鳴湖講演会を同市中区の静岡大浜松キャンパスで開いた。東大大学院新領域創成科学研究

科の山室真澄教授が、汽水湖での水質管理対策について語った。

会員や市民ら約30人が聴講した。山室教授は「日本の湖沼では、1950年代半ばまで水草を肥料用に刈り取っていたため、多様な魚類が生息できた」と

説明し、「今では、湖を昔の姿に戻そうと水草を増やしても、放置されてしまったため、特定の魚しかすめなくなる」と、現在の人間の生活に合わせた環境づくりを訴えた。

佐鳴湖と塩分濃度が近く、シジミの漁獲量

が多い島根県の宍道湖での水質改善活動なども紹介。宍道湖の湖底に比べ、佐鳴湖はシジミが窒息死する原因となる泥が多いことを示し、「なぜ湖底が泥になったのか、まず原因を究明する必要がある」とした。



汽水湖での水質管理対策について講演する山室教授。浜松市中区の静岡大浜松キャンパス